

# 米原歴史街

米原市の歴史・文化財を歩く ⑩

## 特別天然記念物コウノトリ飛来

— 自然環境豊かな米原 —

### 田園を優雅に飛ぶすがた

昨年の七月二〇日頃、市内長岡、村木、柏原などに国指定特別天然記念物のコウノトリが飛来し長期滞在していたことは、新聞各紙で紹介され、実際にそのすがたを目にした人も多いと思います。周辺住民が七月二五日にオスを見つけ、二八日にメスが合流したのを湖北野鳥センター



(長浜市)が確認しました。長浜市高月町雨森でも二一日からメス一羽の飛来が確認されていて、米原市のオスに合流しました。連れだつて稲田や水路で餌のカエルなどをついばみ、約二メートルの翼を広げて上空を旋回したり、写真や絵本などでしか見たことがなかった、電柱上で休むようすがみられました。

二羽ともに、繁殖に取り組むコウノトリの郷公園(兵庫県豊岡市)の足輪があり、メスは京丹後市で四、五月に自然繁殖で五羽生まれたうちの二羽と確認されました。すぐ父親を亡くし、同公園が育てて七月九日に自然復帰しました。同公園によると、もう一羽も自然繁殖により一昨年の夏に放鳥された一歳年上のオスと確認されました。幼鳥同士で、「つがいになるには早く、餌場に寄り合つて行動しているのだろう」とのことでした。

湖北野鳥センターによると、コウノトリの県内飛来は平成二十一年から毎年確認され、県北部が兵庫県生まれ



れのコウノトリの飛行ルートになっているとみられています。一個体が昨年選んだ飛行コースを、別の個体が一年後に追従するメカニズムは不明で、米原市で羽根を休める理由もわからないものの、自然環境が豊かで、静かな環境を好んでいると考えられています。

### もつとも身近な大きな鳥

コウノトリ目には、コウノトリ科、サギ科、トキ科があり、コウノトリはツルよりもサギやトキに近い種類です。翼を開いた長さ二〇〇〜二二〇センチ、全長約一一〇センチ、体重四〜五キロの大型の水鳥で、天野川で餌を探すがたは、ほかのサギ類を圧倒します。羽色は白と金属光沢のある黒、

クチバシは黒味がかつた濃い褐色。脚は赤く、目の周囲にも赤いアイリングがあり、識別は容易です。成鳥は発声するための器官が衰えていて声を出しませんが、クチバシをカタカタと鳴らすクラッタリングをします。とくに繁殖期は雌雄の愛情を確かめ合うクラッタリングを盛んにおこないます。肉食性で、魚とりわけドジョウを好み、一日約五〇〇グラムを食べる大食漢です。その分布は、東アジアに限られ、その数は三千羽くらいといわれています。

ヨーロッパでは、「赤ん坊はコウノトリのくちばしで運ばれてくる」「コウノトリが住み着いた家には幸福が訪れる」という言い伝えがあります。生物学的にはヨーロッパにコウノトリはいないので、シユバシコウ(朱嘴コウ)というくちばしの赤い近縁種です。

江戸時代にはほぼ全国にみられましたが、明治の乱獲により各地で姿を消していききました。第二次世界大戦では営巣木となる松の原木が伐採され、餌場の湿地の干拓や埋立て、農業散布などが原因で、昭和四九年(一九七二)五月二五日、国内の野生コウノトリは絶滅しました。現在では、ロシアのハバロフスクから送られた六羽の幼鳥から、コウノトリの郷公園内外で一六〇羽に増え、三三府県への飛来が確認されています。三月一二日ふたたびペアは帰ってきました。(参考:『鴨と蛭とさぎ草のまち(第二五集)』)

(歴史文化財保護課)